

ポータブル型日本語音声教育システム

Portable and Advanced Language Learning System for Japanese Speech

三輪 譲二 (岩手大学工学部情報工学科)

Jouji MIWA (C.I.S., Faculty of Engineering, Iwate University, JAPAN)

1. まえがき

Java は、KVM (小型仮想マシン) の上で動作し、また、ネットワークやデータベースとの接続も可能である等の特色を持っており、携帯電話程度の大きさの「情報家電」や「情報玩具」の新しいシステムを簡単に構築することができ、将来有望な技術である。ここでは、いつでも、どこでも、だれにでも、手軽に利用可能な個人教授型語学学習システムの開発の第一段階として、ノートパソコンを用いた「ポータブル型日本語音声教育システム (PAL/J: Portable and Advanced Language Learning System for Japanese Speech)」のデモを行う。

2. システム構成と特色

システムは、図 1 に示すように、一般のノートパソコン、マイクロホン付きヘッドホン、および、携帯バッグからなり、特別な装置は必要としない。さらに、Java のマルチプラットフォーム性により、Windows や Macintosh 等の OS を選ばない特色を持っている。

教材は、図 2 に示すように、ネットワーク接続した場合は、サーバから提供され、学習履歴もサーバに記録される。なお、パソコン単独利用の場合でも、Web サーバをパソコン内で動作させることができ、同様な動作となる。なお、当然、CD-ROM の教材も利用できる。

このように、システムは、従来の専用 LL システムと異なり、一般のノートパソコンで構成しているため、学習者にとっても操作が簡単であり、また、管理者にとってシステムの変更や保守が容易であり、さらに、教示の教材の変更のみで、日本語以外の語学教育に利用できるという特色を持っている。また、パソコンは、語学教育だけでなく、コンピュータリテラシーの情報教育システムと共用できるため、二重投資を必要とせず、安価に導入できるという長所を持っており、今後の LL システムの新しい流れになるものと思われる。



図 1 PAL/J の外観図

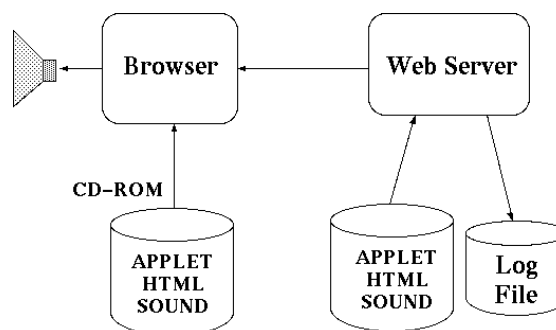


図 2 PAL/J の構成図